

長挨拶
前報告
平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

嫌なものです。それが十年ともなれば、どちらからモ「安楽死」を願うようになるかも！

教訓

- ・ 高いつもりで低いのが教養
- ・ 深いつもりで浅いのが知識
- ・ 浅いつもりで深いのが欲望
- ・ 厚いつもりで薄いのが人情
- ・ 薄いつもりで厚いのが面皮
- ・ 強いつもりで弱いのが根性
- ・ 弱いつもりで強いのが自我
- ・ 多いつもりで少ないのが分別
- ・ 少ないつもりで多いのが無駄
- ・ 低いつもりで高いのが気位

投稿：田村会員

軒昂会会員のネットワーク構築

国では「推進とやらで各地で講習会が盛んです。皆様の中にも講習を受講された方もおられることと思います。またお子様がインターネットをやっている家庭も増えてきています。

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

平年度繰越金 三十九万六六七七円
入会金 十二万八〇〇〇円
十二万一五五八円
六四四二円
三十九万八一九九円

健康長寿十訓

- 少肉多菜
- 少塩多酢
- 少糖多果
- 少食多粗
- 少衣多浴
- 少肉多菜
- 少煩多眠
- 少念多笑
- 少言多行
- 少欲多施

投稿：西牧会員



伊勢原の「しばざくら」

の端に「甲斐の発祥地」の蚕地であった様で地名は「腰巻」トルと書かれています。上野線と分かれ下に見える川まで内標識が立っていますので鶴川とが出来ます。国道二十号線が街道ですが昔の面影を残す場所歩きやすい楽しいコースです。鶴川宿の集落は平坦部におよから激しさを増した雨で家々の落ちていました。鶴川の集落の桑久保方面へ、左折して大柵方面に行くコースをとりました。よってのはかなりの急勾配がたます。

途中中央高速道路を跨線橋で横は一里塚跡がありますが一里塚識だけが立っています。東海歩行ではまだ見ていません、行きますと右下から道が近づ跡」があります。

この辺りには古い家並みが残さ困気を漂わせた集落は街道の面宿場の中ほどに明治天皇休憩時手南側二百メートルくらいのがわかります、この近くは現在集落の道がまっすぐに突き当たきな寺があります。

旧甲州街道はこの寺の裏山へ中我々は傘をさしての歩行でたのでしようか、それとも雨のずれにしても今とは比べものになります。やがて「恋塚の一里塚」松などを植えた基台の部分が破ると思えます。銘文によると「恋塚の一里塚を過ぎてまがが見えてきます。

宝勝寺前を過ぎてまもなく「安達野」といい山梨県北都留郡上鶴川から大柵、野田尻と尾根伝今度は谷川に沿って一気に鳥沢



小さかつたので仲々に辛い仕事であつた。我々子供の仕事を、刈り取つた三株程を一束にした稲を、二束ないしは三束を梯子状の担ぐ道具（瘦せ馬或いは背負子と呼ぶ）で、田の畦まで運ぶことである。

この後、自然乾燥するのであるが、これが隣の米所、新潟は蒲原平野とは違つから不思議でもある。新潟の場合は畦の立ち木等に渡した二、三段の横木に、稲束を跨ぐようにして掛けるに對し、庄内の場合、畦に突き立てた稲杭に、束を交互に十字たなるようにして積み重ねる。丁度、蓑を着けた多くの人間が立つてゐるよう、で、壯麗なものであつた。

これも、農業の機械化、近代化の波に消し去られ、殆ど目にする事も無くなつてしまつた。これにより、初は人工乾燥に移り、お米本来の旨味も無くしてしまつたのは誠に残念である。

(4) 庄内の米物語

昭和の三十四年か五年頃だつたと思うが、新橋にあるホテル日航の近くの、とある。船足力 に入つた時の話をしてみたい。夕方の早い時間帯でもあるうゑ、俄南にたたられて、十二人前後入るカウンターには誰も居なかつた。つけ場には五十才前後の親方を含めて三名だつたと記憶している。仲々に居心地良い店で、親方相手に修行の苦労話などを聞いていたが、そのうち、事、鯨米に話が及んだ折、彼が言余談ではあるが、鶴岡はよく文士を輩してつには、握り餅は庄内米に限るし、関西の押し餅は肥後米が最適と言ふ事であつた。気を良くし、酒が進んだ事は勿論である。

最近では、米を吟味し、上手に炊き上げ、酢飯の旨い握りを出す店が少ない。三年前前、西伊豆の田子漁港で訪れた船足、親方とお上さんだけの店で、熱心に米の大事さを語り、握つてくれた魚旨は流石に逸品であつた。

私の愛読している文芸春秋で、グラビア記事「いい街すし紀行」を一年六か月に自ら連載している。その二〇〇一年三月号で、文を寄稿している岐阜女子大の里見教授は次のような事を書いてゐる。

「漁港近くの船足には、魚介の鮮度と質を自慢して土台の酢メシを蔑ろにする職人が少なくない。しかし、握りの味は「メシセ

ルーツは、彼が育種した品種亀ノ尾にまで遡るとの事。その味の良さは鯨米として賞味され、酒造りにも使われたと言われている。先程の船足の親方が、庄内米を推奨するの、むべなるかなである。

冬

(1) 雪囲い

十一月も半ばを過ぎると、厚い雲が垂れ込め、時雨れる日々が多くなる。それが、やがて実や霞に変わり、激しく窓を打つようになると、これから否心無しに向き合ねばならない、厳しい冬の前触れであり、冬籠りの準備にも拍車がかかる先にも述べたが、冬には台風並の風がふきすさび、粉雪が戸の隙間を通つて家の中返入り込む。現在なち、アルミ・サツシユの戸で難無く防げるが、そんな便利なものも無いので、家の北西側に、よしずを張り巡らし、雪囲いをする。その為、家の中は暗くなり、終日、点灯した儀となる。併し、その囲いでも不十分で、次は私に仕事がつてくる。それは、今ならD・Y.で簡単に手に入る隙間テープを新聞紙で作つては挟み、目張りをする事であつた。それでも、何処からともなく、粉雪が入りこみ、廊下の隅辺りが綿ぼこりのようになつてゐる。つまり、家の中は0度以下にあると言ふ事である。当時の暖房は、炬燵に角火鉢だけなので、無理も無き事。後は、その粉雪を箒で掃いて捨てるだけ。

(2) 保存食

冬籠りの準備に保存食は欠かせない。その代表格は漬物である。この時期、小学校から帰ると、沢席漬用大根を廊下に置き、足で乗つては転がし、しなやかにする作業を、住込みのお手伝いさんと二人でやらされたものである。そんな訳で、家中、大根白菜、菜っ葉の香りが充満する、が、私にとつては、今でも懐かし、忘れ得ぬ初冬の匂いでもある。

(3) 吹雪の中の通学

何しろ、日本海の強い季節風が真面に吹き付けるだけに、雪が降ろうが、降るまいが、何時も雪が舞い、吹雪いてゐる状態。目も開けられないし、息もつけず、飛ばさ

好きなハーモニカを吹くのが常だつた。そして、そんな夜に吹く幾つかの曲の申には、特に、文部省唱歌の冬の夜冬景色が多かつたような気がする。十四年前、痴呆症で会話も儀なら無い母が、小学校のこの頃を唄にして余り吹く事のなかつた冬の夜を何十年ぶりかで聞かせた折、「あ！宏夫だ」と、私の名前を叫んだ時は、予期せぬことに、心から感動を覚えたものである。その母も、昨年十一月、九十五才でこの世を去つてしまつた。

(5) 冬の夜の夢

恐ろしい嵐の夜、厳しい寒気の夜に、一番心が安らぐのは、湯たんぼの温もりを感じながら、頑から布団に潜り込む事であつた。そこには、冬の嵐の音も届かず、眠りを妨げられる事もない、自分だけのささやかな小宇宙があつた。そこで見る夢、それは光り輝く春である。

現在の私の夢は、一冬、庄内で過ごし、春を待ち、春を知る事が出来れば最高の幸せと思つてゐるのだが。

これで、三回に自る山形は庄内、追憶の旅を終了する事とする。拙文を、ご購入頂き有り難うございました。

チベット訪問記

小日向啓次

チベットとは

歴史的には現在の地図で言えば、チベット自治区、青海省、甘肅省南部、四川省南部、雲南省西北部、ブータン、シッキム、ネパール北部、インド北西部、パキスタン東北部にまで及ぶアジア中央部に位置した大国でした。一九五一年中国人民解放軍がチベットの首都ラサに進駐し、「チベット解放」を宣言した。

チベットの混乱の中、チベットの政教一致の最高指導者（国家元首）「ダライラマ四世」は側近と共にチベットを脱出、インド領ダライサムに一九五九年に亡命政府を樹立した。以来43年間、9万人の支援者と共に今日に至つてゐる。

死者に与えられるのは「あの世」行の片道キツプであるのに対しラマ教では往復キツプが渡される。有名なチベットの死者の書「バルド、トエドル」は死者の意識を再生に導くための教典であり死期を問近に迎えた方（ガン末期、死刑囚など）の癒しに用いられてゐるゆゑである。

鳥、水、火、土、塔

チベットにはこの五種類の葬法がある。死者から魂が去つた遺体は「処分すべき物」である。それを鳥に布施するのが鳥葬である。勿論お墓も仏壇もここには必要としない。

最も一般的な遺体処理法は鳥葬であり遺体は服を脱がされ、手足を縛り、白い布を被して家の前で鳥葬の請負人に渡す、請負人は鳥葬場に運び、たき火や太鼓で禿鷲を呼び遺体を石で細かく砕いて禿鷲にわたす。水葬はバラバラにした遺体を川に流し、魚に渡す。貧民、娼婦など、土葬は伝染病死、罪人など火葬は高僧塔葬は大ニマを塩漬けミイラにして塔の中にまつる。その昔には犬葬もあつた事が記録にある。

巡礼と五体投地

ラマ教では寺院や聖地を参拝するのに五体投地というほうぼうがある。両手に厚手の手袋をはめ地面に腹這いに伏せシャクトリ虫のこゝとく前進する大変な体力です。インド、ネパールの国境近くにあるカイラス山（6656m）の聖山に巡礼するのはあこがれであり、遊山でもある。いずれにしても全知全能全体力を持つて信仰することは現在よりリッチに生まれ変わるために必要なことである。

祈り

五体投地

人々と生活

食生活

ここで問題です。